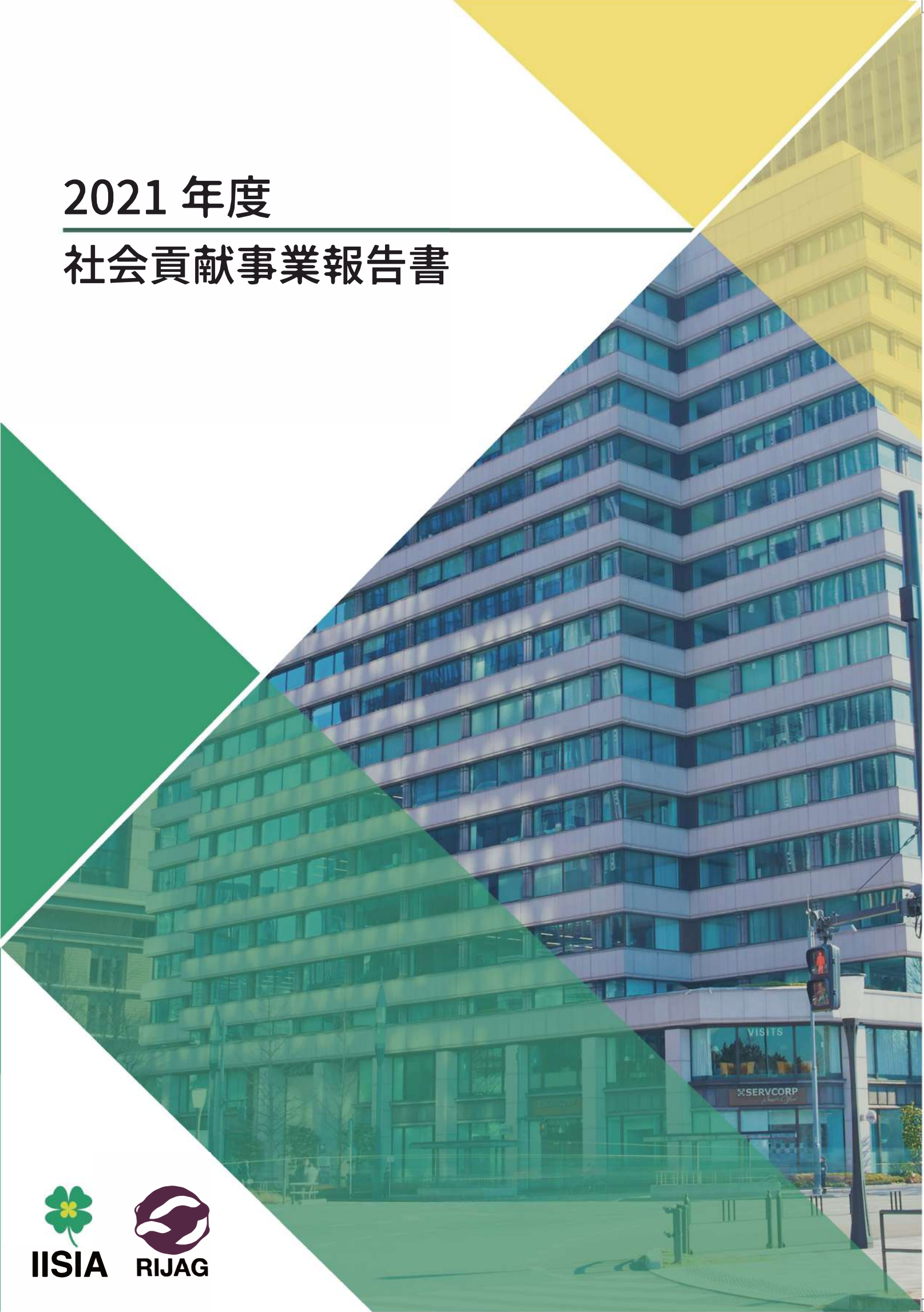


2021 年度

社会貢献事業報告書



IISIA



RIJAG

目次

CONTENTS

- 01 企業及び団体概要
- 03 代表取締役 CEO・代表理事 原田武夫ご挨拶
- 05 IISIA/RIJAG の社会貢献活動が目指すもの
- 06 世界初の情報リテラシー図書館
- 07 明日の Pax Japonica を担う若手人材育成のための情報リテラシー教育
- 11 Pax Japonica の一指針である SDGs を推進するための国内プロジェクト
- 13 Pax Japonica 実現に向けたグローバルへの働きかけ
- 15 社会調査報告「国際社会に対する日本人の意識調査」
- 17 会員制サービス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様の声
- 18 ご支援のお願い

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

企業概要

商号：株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc. (略称：IISIA)

代表取締役 / 最高経営責任者 (CEO)：原田武夫

設立登記：2007 年 4 月 2 日

事業内容：国内外情勢に関する調査研究及び教育活動並びに経営コンサルティング業

資本金：3,000,000 円

本社所在地：〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目 3 番 2 号 郵船ビルディング 3F

URL：https://haradatakeo.com/

一般社団法人日本グローバル化研究機構

団体概要

法人名：一般社団法人日本グローバル化研究機構

Research Institute for Japan's Globalization (略称：RIJAG)

代表理事：原田武夫

設立登記：2011 年 9 月 29 日

事業内容：「グローバル社会における我が国の在り方」を研究し、世界に向けて開かれた
未来指向の提案を行っていく為のプラットフォーム創作

資本金：非営利団体のためなし

所在地：〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目 3 番 2 号 郵船ビルディング 3F

URL：https://rijag.org/jp/



私たちは日本と世界の全ての人々に 希望と未来がもたらされることを目標に活動します。

弊研究所の掲げるヴィジョンである **Pax Japonica（パックス・ジャポニカ）** は我が国だけで実現出来るものではありません。

国内はもとより、グローバル社会全体においてそうした人類共通の未来について深い認識を持つ仲間たちが世代を問わず広がり、もって一つの力になる必要があります。弊研究所はそのために、関連団体である一般社団法人日本グローバル化研究機構（RIJAG）等と共催で、国際連合で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」をも念頭に置きながら、様々な形で社会貢献事業を展開しております。

ご挨拶

Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.
Research Institute for Japan's Globalization

Takeo HARADA

Pax Japonica が実現されるために最も必要なこと。それは過去に対する偏りの無い正しい認識とそこから導き出した歴史法則をベースにしながら、個別の局面で困難に立ち向かうべく、未来志向のロードマップを私たち全員が創り上げる能力を磨き続けることです。そうした能力を次の時代を担う若い世代が磨く場を弊研究所は提供しています。具体的には国内においては我が国有数の大学教育の現場において、また諸外国では現地における有名大学と提携協定を締結した上でオンラインやインターンシップといった形で、それぞれ **“情報リテラシー”教育** を実践して来ています。

また、過去に対する偏りの無い正しい認識を持つために必要不可欠なのが、我が国国内に限らず、グローバル社会前提において人類によるこれまでの歩みを刻み込んだ文化遺産を適正に保全することです。弊研究所は2022年度よりこの分野にも参画しており、今後は **様々な文化遺産に対する適切な保全支援のための活動** を展開して参ります。

加えて、人類社会が未曾有の「危機の時代」へと突入し始めたのがもはや誰の眼にも明らかな中、今こそ取り組むべきなのが、そうした危機を乗り越えるために必須の **技術の開発とその広範囲な社会実装** です。弊研究所では未来シナリオを描くのみならず、そこで示す望ましい未来図を着実に現実化すべく、**国内外有数の大学・研究機関と提携し、緊密な協力活動** を行ってきました。「文系・理系」の壁、さらにはあらゆる予断を越えたところで真に意味のある技術が普及することにより Pax Japonica が実現することを目指し、引き続きこの分野での社会貢献事業につき、尽力していく考えです。

株式会社原田武夫国際戦略情報研究所 代表取締役 CEO
一般社団法人日本グローバル化研究機構 代表理事

原田武夫



情報リテラシー教育とは

Open Source Intelligence (OSINT)＝公開情報から得られる情報の意味を読み取り、Scenario Planning で未来を導き出す力。
この力を私たちは「情報リテラシー」と定義をしています。この力を多くの人々に身に付けて頂くために私たちは様々な活動をしています。

IISIAの会員様には会員制サーヴィスを通じて日々情報リテラシーを高めて頂き、学生には無償で学びの場を提供しています。

「未来シナリオとリーダーシップ」 2021年Sセメスター 東京大学教養学部 全学自由研究ゼミナール（木曜5限）

第1講 イントロダクション（その1）

今、我が国と世界で何が本当に起きているのかを解説します。

第2講 イントロダクション（その2）

第1講で述べた情勢認識を前提にこれから何が必要なのかを論じます。

第3講 今、私たちはどこに立っているのか（その1）

我が国社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えます。
【参考文献】藤井義彦『巨大企業危機機』(さくら舎)

第4講 今、私たちはどこに立っているのか（その2）

グローバル社会がどのような状況に置かれ、その理由は何かを考えます。
【参考文献】リサ・ランドール『ワープする宇宙』(NHK出版)

第5講 今、私たちはどこに立っているのか（その3）

上記2講の考察を前提に国連とその向こう側に広がる未来を考えます。
【参考文献】岩間浩『ユネスコ創設の源流を訪ねて』(学苑社)

第6講 情報リテラシーとその周辺

今求められているスキルとしての「情報リテラシー」の俯瞰図を論じます。
【参考文献】原田武夫『世界のエリートはなぜ、この「フレームワーク」を使うのか』(かんき出版)

第7講 本当の過去を知る・我が国（その1）

知るべき過去として我が国の古代を巡る論を振り返ります。
【参考文献】河内春人『倭の五王』(中公新書)

明日のPax Japonicaを担う

若手人材育成のための情報リテラシー教育

新納草太 東京大学教養学部理科一類・1年

■将来の希望職業

グローバルレベルのジェネラリスト的リーダー
シンクタンク経営者

■参加に至った背景

高校時代それなりに（主に受験）勉強をしてきましたが、社会情勢に疎い自覚があり、大学生として社会勉強もしないと、かなりの気持ちでゼミを受けてみました。しかし、初回の講義から頭をガツンと殴られたような衝撃を受けました。原田先生の語られる世界像は私にとって全く新しいもので、知的興奮と同時に、自分が「お花畑」で生きていたことを痛感しました。原田先生のゼミと出会えたことは本当に幸運で、まさにSynchronicityだと思います。

■ゼミを通して学んだこと

ゼミではたくさんの方のことを学んでいますが、その中でも特に印象に残っていることを幾つか挙げます。1つ目は、世界は常に動いているということ。刻々と変化する世界は自分の無為を待ってはくれません。不断に自己を更新し、その都度思考して行動しなければならず、そこには緊張が伴います。2つ目は、時代の流れは「誰か」が意図して人を動かすことで創っていること。そしてその「誰か」がリーダーシップを担っているということ。3つ目は、Synchronicityの重要性、即ち、あるときにある人・ことと出会うには必ず意味がある、ということ。「お陰様」の精神についても考えを深めることができました。そして何より、世界について学んだ上で、自分が将来どのような役割を果たすのか真剣に考えるようになりました。課題などで大変なときもありますが、ゼミの根底にあるのは、世界を変えたいという志、リーダーシップの源泉です。先生と他のゼミ生の想いを肌で感じることで、毎回多くのことを学んでいます。

■ゼミでの学びを今後どのように活かしていきたいか

私自身まだまだ勉強不足で、原田先生のお話を全て呑み込んでいるわけではありません。ゼミで得られた様々な気づきや疑問を起点に、質の高い読書や議論を通して、幅広い分野において学びを深めていきたいです。その過程で、自分の足場としての専門分野も固めていければと思います。また、公開報道分析など日々の定点観測を通して、「気づき」を得るためのセンスも磨いていきたいです。将来については、考えが煮詰まっているわけではありませんが、ゼミで体得した情報リテラシーを駆使しながら、幅広い分野における教養をもって、各領域の専門家（Specialist）の知を有機的に結び付けて、新たな価値を生み出したり社会の問題を解決したりする、倫理観の高いリーダー（Generalist）を目指しています。ゼミでの学びを活かし、時間間の管理を常に意識しつつ、限りある中で自分自身に価値を創り出すような生き方をしていきたいです。

ゼミの根底にあるのは、世界を変えたいという志



小川華子 東京大学教養学部文科一類・1年

■将来の希望職業

具体的には未定（語学・法学・政治学という興味を活かせる職業）

■参加に至った背景

Instagramをきっかけにこのゼミの存在を知りました。Sセメスターを経て、様々な領域で学んだことが文系・理系といった垣根を越えて繋がっていく楽しさを知り、このゼミならそういった学びを様々なバックグラウンドを持つ方々と共有できるのではないかと考え、参加を決めました。

■ゼミを通して学んだこと

まず学んだのは物事を多角的に捉えることの必要性です。公開報道分析の課題に取り組むなかで、私にはあらゆる視点から圧倒的に不足しており、そのために物事の見方が表面的なものになってしまっていることを痛感しました。しかしそれ以上に、たとえ知識が十分でなくてもそれを総動員して考え尽くし、自分の言葉で伝えることはとても重要であると感じました。原田先生はもちろん、私よりも学年が上で博識な他のゼミ生と議論したり自分の意見を伝えたりすることに対して当初は気が引けましたが、授業を重ねるうちに、未熟なりに考え尽くした分だけフィードバックを受けて自分にはどういった観点が足りていないのかを明確に実感でき、もっと深い分析ができるようになってい、そのために様々な分野について学びたい、という意欲に繋がりました。

■ゼミでの学びを今後どのように活かしていきたいか

このゼミで得られた広い視野を持って物事を分析する姿勢をこれからも大切にしていきたいです。国際紛争といった答えのない問題に対処していくにあたっては、様々な立場があることを理解し、それぞれ異なる主張に耳を傾け、それらのバランスをとって調停を図っていく能力が重要だと思います。多様な立場に寄り添うためには、あらゆる分野について知識を深め、その知識を基盤として多面的な分析を行う姿勢を保ち続けなければなりません。私は語学と法学・政治学に興味があり将来はそういった分野における学識を活かした職業に就きたいと考えていますが、関心がある領域の学びを深めていくだけでなく一見関係がなさそうに思える分野にも常にアンテナを張り、そこで得られたものを基に総合的な判断をしたうえで行動できる人でありたいと思います。

「未来シナリオとリーダーシップ」 2021年Aセメスター 東京大学教養学部 自治会公認自主ゼミ（水曜4限）

第1講 新規登録学生のためのイントロダクション

夏学期で学んだことをあらためて振り返り、秋学期を展望します。

第2講 本当の過去を知る・米欧各論（その1）

米欧勢を語る際に避けて通れない「ユダヤ的なもの」について考えます。
【参考文献】Stephen Birmingham, "The Grandees: America's Sephardic Elite"

第3講 本当の過去を知る・米欧各論（その2）

我が国とロシアとの関係について考えます。
【参考文献】イーゴリ・アレクサンドロヴィチ ラティシェフ『ロシア金塊の行方―シベリヤ出兵と銀行』(新読書社)

第4講 本当の過去を知る・米欧各論（その3）

我が国と米国との関係について考えます。
【参考文献】迫水久常『大日本帝国最後の四か月：終戦内閣「機刀」の証言』(河出文庫)

第5講 リーダーシップとイノベーション（その1）

リーダーシップとは何か、その基礎について学びます。
【参考文献】野田智義他『リーダーシップの旅 見えないものを見る』(光文社新書)

第6講 リーダーシップとイノベーション（その2）

リーダーシップを前提としたイノベーションとは何かについて学びます。
【参考文献】杉本舞『「人工知能」前夜―コンピュータと脳は似ている―』(青土社)

第7講 アントレプレナーシップとは何か

本場に求められるべきアントレプレナーシップについて考えます。
【参考文献】織崎哲也『起業のファイナンス』(日本実業之出版社)

第8講 Make something happen を可能にするために（その1）

他者に対して影響力を与えるということはどういうことなのかを学びます。
【参考文献】本田哲也『戦略PR 世の中を動かす新しい6つの法則』(ディスカバリー・トゥエンティワン)

第9講 Make something happen を可能にするために（その2）

我が国固有の政治構造の中でコトを起こすための手法を学びます。
【参考文献】三宅孝之他『3000 徳門の事業を生み出す「ビジネスプロデュース」戦略 なぜ、御社の新規事業は大きくならないのか?』(PHP 出版)

第10講 未来シナリオとインテリジェンス（その1）

インテリジェンスの世界について、その基礎を学びます。
【参考文献】北村滋『情報と国家-憲政史上最長の政権を支えたインテリジェンスの原点』(中央公論新社)

第11講 未来シナリオとインテリジェンス（その2）

→未来シナリオの作成を巡るグローバル規模での最前線について学びます。
【参考文献】Peter Schwartz "The Art of the Long View: Planning for the Future in an Uncertain World"

第12講 私はこれから如何に生きるべきか

受講学生自身のこれからの人生の設計図を未来シナリオに重ね、考えます。

第13講 各作業グループによる未来シナリオ発表と2022年度に向けて

各作業グループより修了試験に変えて未来シナリオを発表、講評します。

あらゆる分野について知識を深め

多面的な分析を行う姿勢を保ち続ける



——本日はお時間頂きありがとうございます。早速ですが、お二人の卒業までのご経歴を教えてください。

(坂本) 私は卒業後、外資系投資銀行のパークレイズ証券に入社して、その一年後にブラッククローバー合同会社を立上げ独立し、それ以来投資ファンド業務を行っています。

(名切) 私は卒業後、財務省に入りました。昨年（2021 年）春に坂本君と合流して、投資ファンドを運用しています。ゼミの時から坂本君とはコンタクトを取り続けており、面白そうなことやっているなと転職しました。今は毎日楽しく仕事をしています。

——お二人は学生時代、どのようなことをしていましたか。

(坂本) 私は広告研究会というサークルの代表をしていました。また、生活のために IT 会社を経営し、Web サイトを作ったりソフトウェアを作ったりしていました。SNS を運用している GREE という会社で長期インターンもしていました。

(名切) 私は結構授業を真面目に受けていましたね。経済学部でしたが、他学部の授業を聴講したり、課外の授業も受けてみたりしていました。また、IT 企業のレバレージズというところでインターンをしていました。当時は小さいマンションの一室だったのですが、今は急成長して年商数百億円の企業になっていて驚きました。当時は採用担当をしていて、就活前に人事の思考がわかりました。

——ゼミに入られたきっかけ、目的は何でしたか。

(名切) 私は先輩から勧められて入りました。アクチュアリティーある政治の話が聞けるのはこのゼミだけでした。そのため非常に人気があり初回授業は教室に入りきれないほど人が集まっていました。

(坂本) 私は授業の一覧から見つけ、勉強になりそうだと思って入りました。

■学生の為の情報リテラシースクール

現在の IISIA/RIJAG における情報リテラシー教育の基盤を築いた IISIA プレップ・スクール。東京大学をはじめ国際基督教大学 (ICU)、名古屋大学等、日本全国で展開して参りました。卒業生は官公庁、金融、コンサルティング等、様々な業界で活躍しており、私たちは卒業生同士のネットワーキングの一助を行うことで国内外におけるリーダーの輪を拡大させています。また、この延長線上で東京大学等で単位認定を行う正規ゼミナールとしても情報リテラシー教育を展開しています。

情報リテラシー教育の試みとして初めての単位認定のゼミは、 東京大学にて 2006 年春学期に開講しました。

当時の卒業生は外務省、財務省、その他マッキンゼーやパークレイズ等外資系投資銀行へと進んでいます。今回は、パークレイズ証券に勤めた後独立し、現在は投資ファンドの運用をされている坂本俊吾氏、昨年（2021 年）春に財務省を退職し、現在は坂本氏が経営する会社で働いている名切悠晴氏にお話を伺いました。

坂本 俊吾

(2011 年パークレイズ証券入社、2012 年ブラッククローバー合同会社設立)

——ゼミを受けてみて、一番印象深かった学びは何でしょうか。

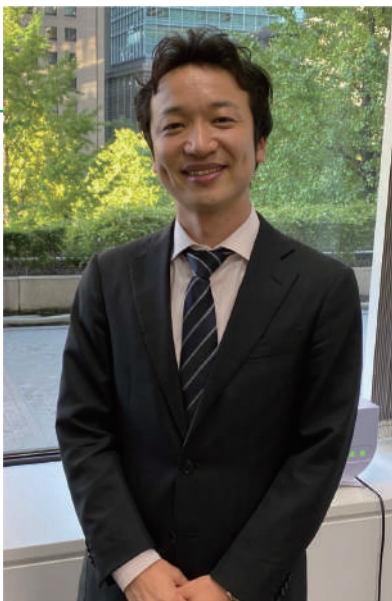
(名切) ある物事について必ず様々な角度から見るということは、とても役に立っています。例えば原田ゼミでは、あるニュース記事分析に際し、その地域他媒体の記事、他言語の記事、関連する書籍などを全て読み、人的関係から非公開情報ベースでの裏取りをして、分析するべきだと教わりました。これは官僚時代も今の仕事でも実行しています。毎週多くの課題があり大変でしたが、大量の情報を要約し、気づきを得て、自分の考えを伝えられるように訓練されたことが、社会人になってとても役に立ちました。

(坂本) 私は初回の講義で、先生がエリートについて「ただ頭が良くて何でもできるというだけの人間はエリートではない。他人の面倒まで見られるのがエリートだ。」と言っていたことがとても印象深く、今でも覚えており、肝に銘じてその後の社会人生活を過ごしています。

(名切) 私も「ノブレス・オブリージュ（仏：noblesse oblige）」という言葉が先生が強調されていたことを覚えています。「自分のためではなく、公益のために時間を使え」と。東大生は、役人か日本の大企業に入るかどちらかにいけと勧められていました。その通りだと思い、財務省に入りました。

(坂本) 初期の講義では、国外発行の英字新聞を読んで分析するという課題がとても辛かったです。でも今はお陰様で、情報分析する際はメディアを少数に絞らず、多数の言語を読むのが基本という姿勢が身につきました。グループワークでは、僕よりも圧倒的に優秀な同級生たちが一生懸命課題をこなしていました。仲間を我が家に招待して、ピザを注文するのが僕の仕事でした（笑）お金ではなく飯で若者を動かすという手法も身に付きました。あるとき、模擬株式投資を行い、その収益を競うという授業がありました。僕のチームは、僕が思い付いたアイディアで莫大な収益を上げ、他チームと圧倒的な差をつけて優勝しました。実資金を伴わない擬似的な投資ではありましたが、そこで初めて投資を体験したことが、今の仕事に繋がっています。

(名切) 野党と与党に分かれて、政策検討会のロールプレイをすることもありました。当時は両サイドが歩み寄るシナリオを描いていたのですが、先生から「歩み寄りなんてするわけがない、与党野党は喧嘩するものだ」と厳しく指摘されました。実際にその通りでした。



童 菲

(2018 年東京大学入学（法学部 3 年）現在、弊研究所インターン生)

インタビューを受けて

10 年程中国に滞在し、自分の世界像には必ず「バイアスが入っている」と感じていた私にとって、「中立的な情報の見方を得る」ことは留学する理由の 1 つでした。IISIA は、常にインテリジェンスの最前線で情報を収集・分析し、世の中に情報発信していて、ゼミを通して是非その手法を学びたいと思い応募したのが懐かしいです。毎回プレゼンテーションがあり、その準備に向けたチームワークや資料作りはかなりの作業量でしたが、「あの時事問題について、先生はどう分析するだろう」と気になり結局 3 学期もゼミを続けて「しまい」ました。

授業では公開報道の事実関係を、外国語のニュースサイトや統計データ、関連図書や論文を参考にし、徹底的に整理して、具体的に未来シナリオを導くことが求められていました。大量の情報をまず読み解くことに精一杯で、そこから何が導けるかを必死に考えてみても、何も分からなかったのが正直なところでした。何よりも、「何故」自分が未来シナリオを作るのが戸惑っていました。「中立的な情報の見方を得る」という動因はあったものの、その見方を習得して何をしたいか、あやふやでした。どんな「人生」を送りたいのか、「何」を成し遂げたいのか。それによって、情報分析の精度や、その未来シナリオの方向性も変わっていくのだと思います。名切さんが「35 歳を過ぎたあたりで、ゼミでの話の本質が理解でき役に立つ」とお話ししていたのを聞き、思わずうんうんと大きく頷いてしまったのもそのせいかもしれません。現在インターンで新規事業の開発に携わる中、お二人が揃って思い返していた「ノブレス・オブリージュ」を肝に精進していきたいです。

名切 悠晴

(2011 年財務省入省、2021 年ブラッククローバー入社)



——「情報リテラシー」について、現在どのようにお考えですか。

(坂本) 文章が読める、文章として理解できるという基礎能力を超えて、情報の真偽やなぜそのような記述・表現がされているのか、なぜこの情報が特定のメディアのみに公開されているのか、誰がどのような目的を持ってリークした、あるいはリークさせたのか、なぜここまでしか書かれていないのか、ということ等を常に考えるようになりました。メディア分析のみならず、いわゆる公開報道に対して高い読解力が身についたと思います。穿った見方ができるようになりました。これはどの仕事をするにも非常に便利だと思います。恐らく日本国民に限らず、世界でも、今も昔も 98% くらいの人はメディアやイン

ターネットの情報を大して分析せず、ファクトの確認をせずにそのまま鵜呑みにし、かつ伝播しているのだと思います。それ故、一定以上のリテラシーを持ち、ちゃんと考えることのできるごく少数の人間だけが得するような世界になっています。

(名切) 「情報リテラシー」と言っても、初めて聞く人には理解が難しいと思います。大抵は授業前に期待していた内容と全く違うことを授業で学んでいることに気付きます。社会に出て 35 歳を過ぎたあたりで、ゼミでの話の本質が理解でき役に立つのではないのでしょうか。学生諸君には今はわからないと思いますが、将来の投資だと思って、ぜひ挑戦してほしいです。



Pax Japonica における一指針である SDGs を推進するための国内プロジェクト

次世代育成のための情報リテラシー教育や国際的な非政府組織を含む様々な組織および個人との協力体制の構築などを行いつつ、この精神に基づき国際連合（UN）が提唱する持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けても多様な形で尽力しています。



「七星剣」年代確定調査

弊研究の目指す Pax Japonica を地方にも浸透させていく目的で、地方創生および学術・文化振興のプロジェクトとして、高知県四万十市への寄付を通じて歴史的価値の高い「七星剣」の年代確定調査の実施を財政的にサポートする寄付事業を行っています。

今後のプロジェクトスケジュール（予定）

2022 年度 調査委員会による調査方法検討

2023 年度 年代確定調査実施

2024 年度 調査結果公表、シンポジウム開催



ラブエフェム国際放送株式会社

「原田武夫の New Breeze」

「国際金融都市」へと福岡が変貌を遂げるにあたり、我が国がたどる未来に向けた道のりを中心に弊研究所代表・原田武夫が国内外の旬なトピックを取り上げ、2022 年 1 月よりお届けしています。毎週火曜日 12 時 50 分より 10 分間放送しています。（「radiko」で全国より聴くことができます。）

株式会社南日本放送

2021 年 4 月から 9 ヶ月に渡り、株式会社南日本放送（鹿児島）にて、心理カウンセラー神田奈巳さんにパーソナリティを務めて頂きつつラジオ番組「神田奈巳のあなたを支えたい」を放送しました。鹿児島県を中心として南九州では離婚率やシングルマザー率が高く、悩みを抱える女性が多いことから、主に中高年代女性をターゲットとし、国連 SDGs の中に挙げられている「女性の地位向上」「女性の社会進出」を達成するためのプロジェクトとしてサポート致しました。

パーソナリティ・神田奈巳よりコメント

主に 40 代から 60 代の女性を中心とした日頃のお悩みを広く聞かせて頂きました。誰にも言えない、誰に相談すればよいかわからないという状況の中で、お寄せ頂いた悩みの大半は人間関係の問題でした。私が一番お伝えしたかったことは、全ては自分に返すことで問題解決ができるということでした。時には受け入れ難い考え方もあったと思いますが、「自責」の考え方ができると嫌な出来事こそが自分を大きく変化させる絶好のチャンスだと捉えていただくことは一貫して伝えてきたことです。人生に無駄なことは何一つなく、苦難や苦しみは自分が与えたものであると理解されると世界は一変します。短い時間の中で腹落ちするまでは難しいことだと思いますが、別の視点から自分を見ることは描きたい未来を創るスタートとなります。視聴者の方から「これ私のことだと思って聞いていました」という言葉を頂戴しました。悩みを思い切って相談することで同じような思いをしている方にも届くこと、これはラジオにしかできないことだと思い、改めてこのような機会を頂きましたことに感謝致します。ありがとうございました。最後に、皆様の人生が可能性にあふれた未来となることを心よりお祈りしています。



Pax Japonica 実現に向けたグローバルへの働きかけ

2045 年に向けた「UN75」への参画として SDGs（教育・経済・平和）へのコミットメント、海外の大学およびシンクタンクとの連携、権威ある国際会議での発言機会を拡大しています。



グローバル社会に向けた発信

- ① 世界最大のシンクタンク評価機関である米ペンシルヴァニア大学ローダー・インスティテュートが発行する「Global Go To Index Think Tank Report」における「Think Tank to Watch/ 注目すべきシンクタンク」ランキングで、**弊研究所が 31/109 に輩出されました。当ランキングに選出されたシンクタンクは日本では IISIA のみです。**

- ② 2021 年 4 月 6 日、世界最大級の投資・ビジネスリーダーとバチカン（ローマ教皇庁：キリスト教カトリックの総本山）による国際協議体の「Council for Inclusive Capitalism with the Vatican（本部：バチカン）」に正式に認められ加盟しました。この協議体（「包摂的な資本主義のための協議会」）は、ローマ教皇フランシスコが支持する世界的に有力な投資機関や企業、労働組合、財団による協議会で、資本主義がもたらす社会や環境への悪影響の緩和を目的として設立されました。創設者はロスチャイルド家のリン・フォレスター・ド・ロスチャイルド（Lynn Forester de Rothschild）。加盟メンバーは、国際連合（UN）の「持続可能な開発目標（SDGs）」の順守など、より公正かつ信頼性の高い経済システムの構築に向けた行動をとらなければならないとされています。



Council for Inclusive Capitalism with the Vatican について

ローマ教皇フランシスコの倫理的助言を受けてバチカンの支援で 2020 年 12 月に設立された国際協議体。「Guardians for Inclusive Capitalism」として知られる世界の最高経営責任者（CEO）らと公共リーダーの中核グループに率いられ、彼らは毎年バチカンと会合している。メンバーの中で、投資機関の運用資産額は合計 10 兆 5,000 億ドル（約 1,100 兆円）に上り、企業の時価総額は合計 2 兆ドルを超え、労組の組合員数は世界各地の計 2 億人余りに達する。具体的には、米銀行大手バンクオブアメリカ、英石油大手 BP、米ジョンソン・エンド・ジョンソン、米フォード財団、米ロックフェラー財団などが加盟している。

公式 HP： <https://www.inclusivecapitalism.com/>

加盟メンバー掲載ページ： <https://www.inclusivecapitalism.com/member/takeo-harada/>



海外の名門大学との協力協定

弊研究所は将来的な国連 NGO ステータス獲得を目指しており、その一環として 2019 年 6 月にロシア・サンクトペテルスブルグ国立経済大学（UNECON）と協定を締結しました。協定締結後、オンライン講座及びワークショップを実施し、同年 8 月には UNECON の学部生 2 名を弊研究所に招へいしました。約 1 カ月間のインターンシップを開催し、UNECON 側から同プログラムに対して高い評価を得ました。UNECON に次いで、米商務省が主催するフルブライト奨学金事業が支援し、ヴェトナム初の独立系非営利大学として 2016 年に設立されたヴェトナム・フルブライト大学（FSPPM）とも協定を結びました。2020 年及び 2021 年は COVID-19 の影響により、インターンシップは不開催となりましたが、今後も両大学との間のインターンシップ・プログラムを継続・発展させていく所存です。

提携校

ロシア・サンクトペテルスブルグ国立経済大学（Saint-Petersburg State University of Economics : UNECON）

ロシア・サンクトペテルスブルグにある公立の大学。モスクワ大学と並ぶロシアの名門大学であり、帝政ロシア及びソ連時代を通じて、ロシアの教育・文化面で多大な役割を果たした。

ヴェトナム・フルブライト大学（Fulbright School of Public Policy and Management : FSPPM）

米ハーヴァード大学の「ヴェトナムプログラム」により 100%外資で 2016 年に設立され、2012 年の大学教育法で認められた非営利私立大学モデルの初の適用例となった。



社会調査「国際社会に対する日本人の意識調査」

我が国の国民が持つ国際社会に対する意識傾向を明確化し、それを発信することで、今後世界に対し平和的共存および人類の持続的発展を促す軸となる「日本的なる」価値観を定量的・定性的に諸外国に提示し、Pax Japonica のドライバーとしていくため、我が国の社会における意識調査を実施致しました。

調査概要

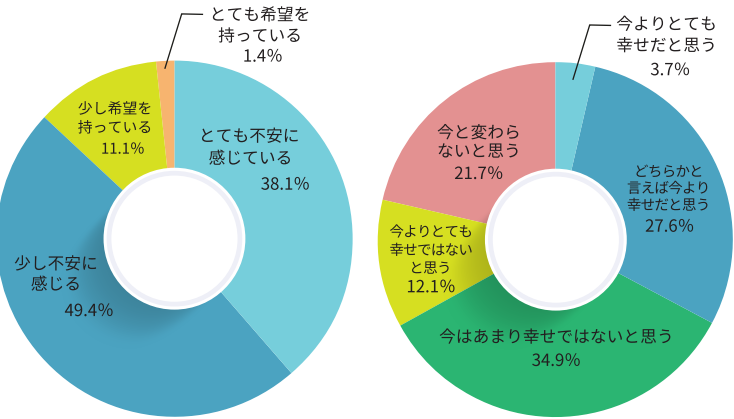
調査対象：「日本並びに世界の社会課題に関心がある」と回答した日本全国の 16 ～ 69 歳男女 1,000 名
調査手法：インターネット調査
実施時期：2021 年 4 月 14 日（水）～ 4 月 15 日（木）

調査背景

国際連合（UN）による UN75 イニシアティブで実施された調査を我が国の国民対象に特化して追調査する他、それに独自の質問項目を加えた調査の実施により我が国の国民における自国および国際社会に対する意識傾向を明確化し、日本社会及び国際社会に対して具体的な提言を行っていくため、また、その数値的根拠を得るため本調査を実施致しました。

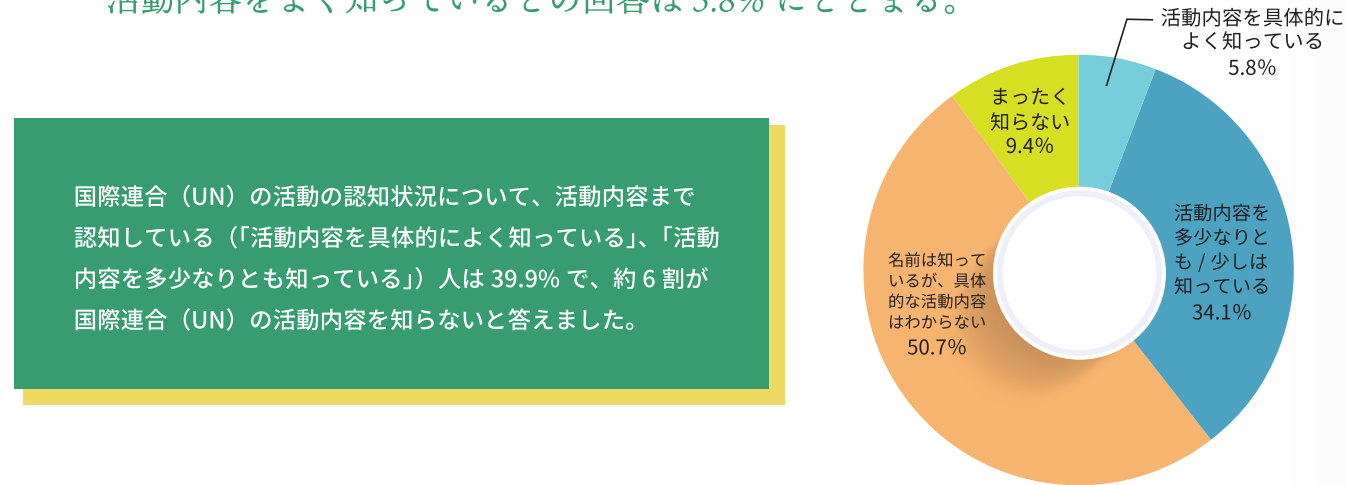
調査結果

1. 10 年後の日本社会に対して、87.5% が 10 年後の日本社会に不安を感じていると回答。また、25 年後の世界では人々は今より幸せでないと回答した人が 47%。



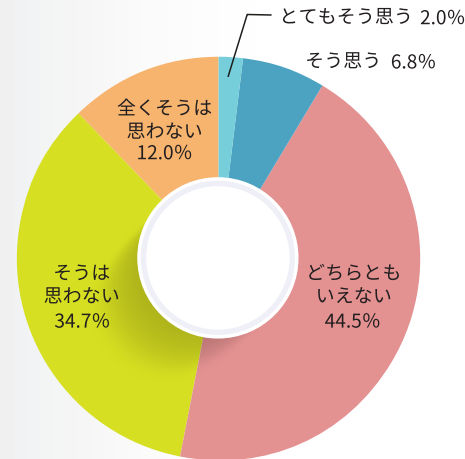
10 年後の日本に対して不安を感じるか、希望を持っているかを質問すると、約 9 割が「不安に感じる」と回答しました。また、25 年後の世界で人々は今より幸せだと思うかを質問すると、「今よりとても幸せだと思う」(27.6%) で合計すると 31.3%でした。他方で、「今よりあまり幸せではないと思う」(34.9%)、「今よりとても幸せではないと思う」(12.1%) という結果から、約 5 割は将来に対して悲観的であると言えます。

2. 国際連合（UN）の活動について認知度は過半数を下回るおよそ 40%。活動内容をよく知っているとの回答は 5.8% にとどまる。



国際連合（UN）の活動の認知状況について、活動内容まで認知している（「活動内容を具体的に知っている」、「活動内容を多少なりとも知っている」）人は 39.9% で、約 6 割が国際連合（UN）の活動内容を知らないと答えました。

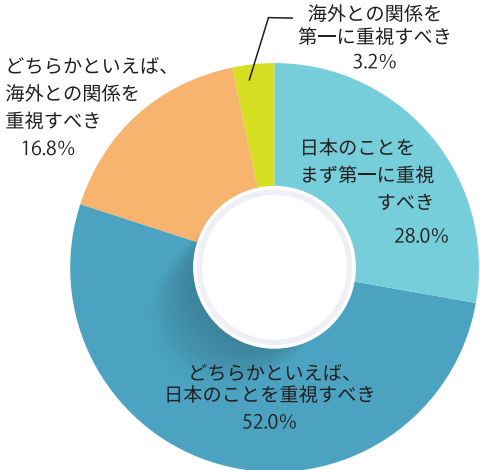
3. 46.7% が「国際連合（UN）は国際問題にうまく対処できていない」と回答。「うまく対処できている」と肯定的な回答は 8.8%。



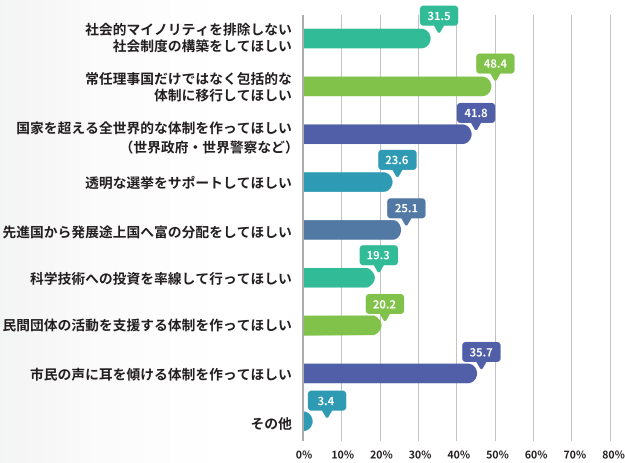
国際連合（UN）が国際的な社会課題に対してうまく対処できていると思うかを問うと、「うまくできているとは思わない」という回答が 46.7% を占め、反対に「うまくできていると思う」という回答は 8.8% にとどまる結果となりました。

4. 80% が日本は「海外との関係よりも日本国内の問題を重視すべき」と回答。国内の社会問題への対応と国際協調のバランスが課題。

日本は諸外国とどのような国際関係を築くべきだと思うかを問うと、海外との関係よりも「日本のことを重視すべき」との回答が約 8 割という結果でした。一方で、本調査の別項目では 86% が「国際的な社会問題に対しては世界各国が協調して一緒に取り組むことが重要である」と回答しており、国際協調の重要性を理解しながらも、まずは日本国内の社会問題への対応を求めていることがわかります。



5. 国際連合（UN）の組織改革を望む声により、国際連合（UN）を軸とする現存の世界的な社会体制がもつ問題点が明らかに。



国際連合（UN）が国際的な社会問題に対してどう対処していくのが良いか、国際連合（UN）に提言するならばどのような提言をするかを問うと、約 50% が「常任理事国だけではなく包括的な体制に移行してほしい」と回答しました。その他国家を超えるグローバルな社会体制の構築や国際連合（UN）の組織改革を望む意見が集められました。

その他、関心を持っている日本及び世界の社会問題に関する設問や、国際社会の中での日本の立ち位置に関する意見を問う設問など独自の質問項目によりデータを収集しレポートを作成致しました。今後、弊研究所として、具体的にどのような世界システムが望まれているのかについて更に調査をすすめ、国際社会における我が国の目指すべき在り方を検討しながら、人々の社会問題への取り組みを活性化させていき、さらに、調査により得られた定量的なデータをもとに、しかるべき組織に提言していくことにより希望にあふれる社会を形成していく所存です。

▼他の設問への回答結果や年代別の分析など、詳細な調査レポートは下記ページよりご覧ください。
<https://bit.ly/33v5oT6>

会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」会員様の声

H・Y 様（広島県・ゴールド会員）

※2021 年度、社会貢献事業へ御寄付を頂きました。

- 入会のきっかけ
2009 年 10 月末、投資目的でネットの情報を探していたところ IISIA の HP を見つけたというのが最初のきっかけです。1 年間の単品購入を経て、内容の価値、値打ちが圧倒的だと思い入会を決めました。
- 10 年以上会員をご継続頂いての感想
3 年目位までは見ても読んでもさっぱりわからなかった。音声レポートは 1 日に6〜7回聞き、デイリーレポートも何回も読み返していました。先生（註：弊研究所代表・原田武夫）のおっしゃることは、私にとって様々な面で初めてのことが多く、非常に難解でした。先生ご自身がどんどんバージョンアップされているので今でも難解です。まず 3 年、3 年間は訳もわからずがむしゃらに見て聞くという感じです。私は 10 年以上会員を続けていますが、そうすると自分の心や頭の中に沈殿していくものがあります。それらが繋がりの一つの視野として捉えられるようになった気がします。
- 社会貢献事業に御寄付頂いた経緯
一つは、先生のレポートを見聞きしたことで利益を上げたことです。前々から先生が社会貢献事業に参画するのが良いとおっしゃっていましたが、どのよう参画したら良いかわかりませんでした。IISIA から情報を得て利益が出たので、当然のことながら、少しお返しをさせて頂くのが筋だと思い、寄付をさせて頂きました。余裕があれば他の所にも貢献していきたいと、今後の目標としては考えています。もう一点、これも先生が常々おっしゃっていることで「お金は流動性である」であると。「水は止めていると腐っていく」という表現をよくされていたので、僅かなことですが、自分の身を守るためにも、外に出していた方がいいのではないかと思います。寄付をさせて頂きました。
- IISIA の社会貢献事業についての御考え
利益の 50%を回すということはなかなかできないです。でもそこに個人であり、社会であり、成長していく大きなヒントがあるのだらうと感じています。世の中利権を回す者として、将来の人間財に本当の事実を早い段階から知って頂いて、どのように対処したら良いのかということを知りながら身につけて頂きたい。そうすると、将来が明るくなるのではないのでしょうか。我が国はもちろんのこと、地球規模のお話です。
- 未来を担う若者へのメッセージ
今まではネット中心で知識を入れ、それに基づき現在の地球の見方、社会の見方、人の見方が出来上がっていると思います。しかし先生のご指導によって、本当の事実を教えられているわけですから、その事実は何であるかということを徹底的に、目を見開いて耳を大きくし、知見を広げていってください。そして、真実に基づいて将来の判断をできるようになって頂きたいです。

T・K 様（東京都・シルヴァー会員）

- 入会のきっかけ
初めて参加した無料セミナーで、先生（註：弊研究所代表・原田武夫）の話を衝撃を受けました。中学生の時、授業で中東戦争の話が出てきて、ずっと繰り返されているのはなぜだろうと疑問に感じていたことを思い出しました。本や教科書で習ったことは全く違い、本当のことがわかったという衝撃です。その後、何度かセミナーに参加しているうちに心境の変化がありました。日々、新聞を隅々まで読んでいたのですが、満足感がなく焦燥感を感じていました。ニュースを見て回って眠れなかった日もありました。IISIA のセミナーに参加しているうちに、気付くという気持ちが消えていき、セミナーが待ち遠しくなり入会を決めました。
- 10 年以上会員をご継続頂いての感想
仕事をしているときはゴールド会員でしたが、仕事を辞めたので、会員をずっと続けていくことを考えシルヴァーにランクを落としました。SNS の音声と日々のレポート、金曜の週刊音声を聞くために頑張っています。最初の頃は想像も付かないような話でしたが、もっと聞きたいもっと聞きたいという思いになり、今では毎回ワクワクしています。物語を読んでいるような、自分がその世界にいるような気持ちになります。
- IISIA の社会貢献事業についての御考え
社会貢献事業と聞いたとき、自分の興味や楽しみのために会費を払っているのに、社会貢献とは気が引ける気持ちでした。しかし、懇親会等でプレッ・スクール生の発表や東大ゼミ生から直接話を聞き、少しずつですが貢献できているのかなという実感が湧いてきました。IISIA の社会貢献事業は海外でも様々な取り組みをされていて、世界的な活動の一助になっているということ、今も会員を続けていられることに感謝しています。志を持って自分の夢や目標に向かって努力している方に対して、自分が微力でも応援や手助けをできるような存在になりたいと 20 代、30 代の頃に考えていました。そのためには、まず自分が自立しなければと道に迷いながら進んできたのが、IISIA に、今に繋がっていると思っています。若い頃に考えていたことが実現して私は幸せです。
- 未来を担う若者へのメッセージ
先生の講座を受けるということは、高い探求心をもたれている方ばかりだと思います。現在はコロナという大変な時期ではありますが、先生から直接的に教えられるという環境にいられることは大変恵まれています。これからの人生の基礎になる大きなチャンスを持っているのだと思います。先生から受けられた多くの学びを活かして、Pax Japonica に向けた先生の活動の一翼を担う立場だったり、日本や世界でリーダーシップを発揮したり、もしかして中には今の先生の立場のようになれる方も出てこられるのではとすぐ期待して、今後も応援させて頂きたいと思っています。

毎日大最に流れる情報の洪水に飲み込まれることなく激変する環境と難しい局面を乗り越えるにはどうすればよいのか——— その切り札として弊研究所は“情報リテラシー”を提唱しています。

“情報リテラシー”とは情報の洪水から本当に必要なものだけを抽出すること、そこで得た気付きをベースに“調査分析レポート”を創り、リーダーシップを発揮して結果として望ましい未来を創り上げることです。

この“情報リテラシー”は定性分析と定量分析を日々アップデートしながらかけあわせたもので、この手法を実用化し、日々公表しているのは我が国では弊研究所だけです。そして、私たちの商品「予測分析シナリオ®」や「マンスリー・レポート」「デイリー・レポート」「日刊・原田武夫」などを通じてお客様自身が「気付き」を導き出し、“情報リテラシー”を身につけていただきたい、それが私たちが提供する価値であり強みなのです。

私たちが提供する価値、強みは“情報リテラシー”

そして、そこからお客様ご自身が導き出す「気付き」です

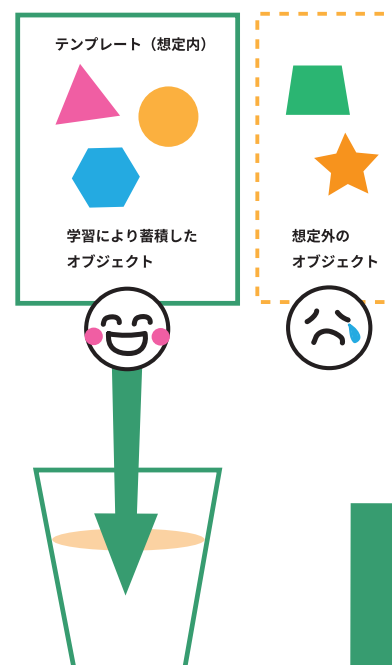
ご支援のお願い

弊研究所の社会貢献事業は、会員制サーヴィス「原田武夫ゲマインシャフト」の会費から生じる利益の 50%を用いて行っています。会員になっていただくことで、社会貢献活動に御参画頂くことが可能です。

また、IISIA / RIJAG が展開しております社会貢献事業にご賛同いただき、個別のご支援（ご寄付）をご検討頂けます場合には、御芳名、所属、御連絡先、御希望額を記載の上、下記アドレスまでご連絡頂けますと幸いです。

何卒、宜しくお願い申し上げます。

support@haradataakeo.com



- ①生きることは思考のフレームワークを日々変更していくことです。
- ②しかし、ここへ枠外の出来事が起きます。
- ③フレームワークを広げるには莫大なエネルギーが必要であるため、新しい出来事に対して不快感を感じるあるいはなかったことにしようとする。
- ④したがって、③を乗り越え自らフレームワークを柔軟に収縮させることがカギとなります。
- ⑤未来に向けて起こり得る出来事をあらかじめ思考のフレームワークに盛り込み、何が起きても準備するための脳力が“情報リテラシー”です。
（“情報リテラシー” — インテリジェンス (Intelligence) + シナリオ作成 (Scenario Planning)）
- ⑥“情報リテラシー”を身に付けた先に見えてくるのが我々の目指すべき“Pax Japonica”です。

“情報リテラシー”を持つことにより
表層だけではなく、深く掘り下げることができる



株式会社原田武夫国際戦略情報研究所

Institute for International Strategy and Information Analysis, Inc.



Research Institute for Japan's Globalization
一般社団法人 日本グローバル化研究機構

YouTube : <https://bit.ly/3B5kFtS>
Facebook : <https://www.facebook.com/iisia.jp>
Twitter : <https://twitter.com/iisia>
Instagram : https://www.instagram.com/iisia_official/

YouTube



Twitter



Instagram



IISIA_OFFICIAL